

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-000483

(43)Date of publication of application : 07.01.1997

(51)Int.Cl.

A47L 13/24

(21)Application number : 07-154813

(71)Applicant : TOKAI:KK

(22)Date of filing : 21.06.1995

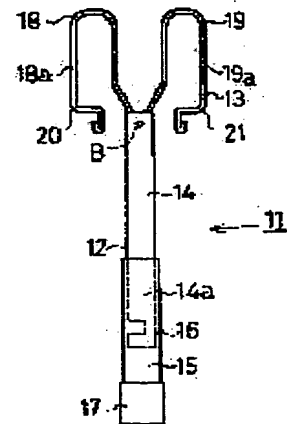
(72)Inventor : SHIMIZU KAZUTO
TAKAGI YOSUKE
HATAKEYAMA TADAHARU
MIZUTANI ISAO
ISHIHARA EMIKO

(54) MOP SUPPORTING TOOL

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a mop supporting tool hardly broken at the time of use for easily attaching and detaching a sweeping member.

CONSTITUTION: A forked type mop 11 is composed of a handle 12 and a supporting member 13. The supporting member 13 is constituted of a pair of clamping pieces 18 and 19 composed by bending and forming a piano wire into an inverse U shape and the respective base end parts of both clamping pieces 18 and 19 are fastened and fixed to the tip part of a center cylindrical body 14 by a bolt B. Parts near the base end parts of the respective clamping pieces 18 and 19 are bent mutually in a V shape widened towards an outer side and the tip parts of the respective clamping pieces 18 and 19 are bent in a crank shape and turned to hook parts 20 and 21. Thus, the bar-shaped parts of any diameters are swept and cleaned by a recessed part formed on the inner side of both clamping pieces 18 and 19.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 26.11.1997

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 22.06.1999

[Kind of final disposal of application other than the
examiner's decision of rejection or application
converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of
rejection][Date of requesting appeal against examiner's decision
of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-483

(43) 公開日 平成9年(1997)1月7日

(51) Int.Cl.⁶
A 4 7 L 13/24

識別記号 庁内整理番号

F I
A 4 7 L 13/24

技術表示箇所

B

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平7-154813

(22) 出願日 平成7年(1995)6月21日

(71) 出願人 390005212

株式会社トーカイ

岐阜県岐阜市若宮町9丁目16番地

(72) 発明者 清水 和人

岐阜県岐阜市若宮町9丁目16番地 株式会
社トーカイ内

(72) 発明者 高木 洋介

岐阜県岐阜市若宮町9丁目16番地 株式会
社トーカイ内

(72) 発明者 島山 忠治

岐阜県岐阜市若宮町9丁目16番地 株式会
社トーカイ内

(74) 代理人 弁理士 恩田 博宣

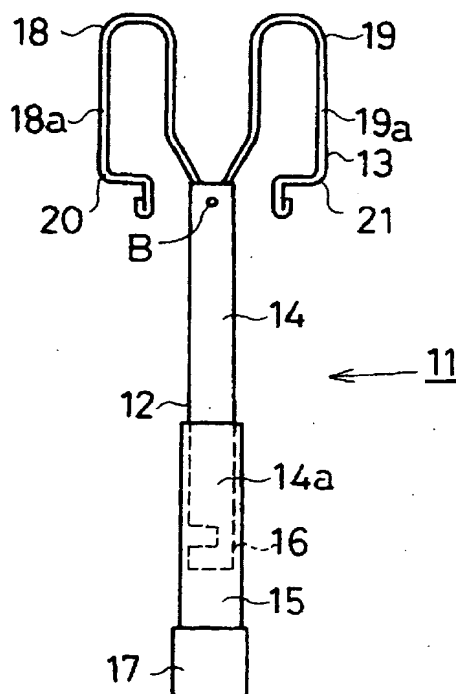
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 モップ支持具

(57) 【要約】

【目的】 使用時に折れにくく、払拭部材の取付け及び取外しが容易なモップ支持具を提供する。

【構成】 2又式モップ11は柄12と支持部材13とからなっている。支持部材13は、ピアノ線を逆U字状に折曲形成してなる一对の挟持片18、19から構成され、両挟持片18、19の各基端部はボルトBによって中筒体14の先端部に締付固定されている。各挟持片18、19の基端部近傍は互いに外側に向かって広がるへ字状に折曲げられており、一方、各挟持片18、19の先端部はクランク状に折曲げられ掛止部20、21とされている。そのため、両挟持片18、19の内側に形成された凹部Xによってあらゆる直径をなす棒状部位をも払拭清掃することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 柄の先端部に払拭部材が装着される支持部材を設け、同支持部材には、前記払拭部材により払拭される家具等における棒状部位を挟持し得るように複数の挟持片を枝分かれして設け、前記各挟持片には柄の長手方向に沿う全長にわたって柄の長手方向と直交する方向へ撓む弾性を付与したモップ支持具。

【請求項 2】 前記各挟持片は、弾性線材を折曲げることにより形成されている請求項 1 に記載のモップ支持具。

【請求項 3】 前記各挟持片には、掛止部が設けられている請求項 1 又は請求項 2 に記載のモップ支持具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、モップ支持具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来より、家具等における棒状をなす部位の外周面、例えば椅子の脚部等を払拭するモップとしては、図 4 に示すような 2 又式モップが知られている。この 2 又式モップ 30 は、作業者により把持される柄 31 の先端部にプラスチック等の合成樹脂からなる 2 又状をなす支持部材 32 がボルト B によって取付けられている。そして、使用時には、前記支持部材 32 における一対の挟持片 33 の形状に対応するように 2 点鎖線で示される袋状のモップ体 M を被せ、両挟持片 33 の内側に形成された凹部 34 に椅子の脚部等を挟持しながら払拭清掃していた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ところが、上記の 2 又式モップ 30 には次のような問題があった。支持部材 32 がプラスチック製であるため、前記両挟持片 33 の内側に形成された凹部 34 の内部幅よりも直径の大きな棒状部位を払拭清掃する場合においては、各挟持片 33 の外側への撓み限界が低いと、同各挟持片 33 が折れやすいという問題があった。また、各挟持片 33 の基端部間の幅が決められているため、前記両挟持片 33 の内側に形成された凹部 34 の内部幅よりも直径の小さな棒状部材を払拭清掃する場合には、当該棒状部位とモップ体 M との間に隙間ができてしまい払拭清掃しづらいという問題もあった。

【0004】 更には、各挟持片 33 の基端部間の幅が挿入可能な袋状のモップ体 M を被着しなければならないため、2 又式モップ 30 の使用時には、モップ体 M が前記支持部材 32 から抜けたり外れたりするおそれがあった。そのため、モップ体 M を柄 31 に対して紐等で縛らなければならない、モップ体 M の取付け及び取外しが面倒であるという問題もあった。

【0005】 本発明は上記問題点を解決するためのものであり、その目的は、折れにくく、且つ払拭部材の取付け及び取外しが容易なモップ支持具を提供することにあ

る。

【0006】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために、請求項 1 に記載の発明では、柄の先端部に払拭部材が装着される支持部材を設け、同支持部材には、前記払拭部材により払拭される家具等における棒状部位を挟持し得るように複数の挟持片を枝分かれして設け、前記各挟持片には柄の長手方向に沿う全長にわたって柄の長手方向と直交する方向へ撓む弾性を付与した構成とした。

【0007】 請求項 2 に記載の発明では、前記各挟持片は、弾性線材を折曲げることにより形成されているものとした。請求項 3 に記載の発明では、前記各挟持片には、掛止部が設けられているものとした。

【0008】

【作用】 請求項 1 に記載の発明では、支持部材は、各挟持片によって挟持される棒状部位に合わせて前記柄の長手方向に沿う全長にわたって柄の長手方向と直交する方向に撓み可能とされる。

【0009】 請求項 2 に記載の発明では、請求項 1 に記載の発明の作用に加えて、各挟持片の弾性が増すものとされる。請求項 3 に記載の発明では、請求項 1 又は請求項 2 に記載の発明の作用に加えて、払拭部材が各挟持片の掛止部によって掛止される。

【0010】

【実施例】 以下、本発明を 2 又式モップに具体化した一実施例を図 1 ～図 2 に従って説明する。

【0011】 図 1 に示すように、2 又式モップ 11 は柄 12 と支持部材 13 とからなっている。柄 12 は直径の異なる 2 本の中筒体 14 と外筒体 15 とからなっており、同中筒体 14 の基端部 14a は外筒体 15 の先端部に挿通されている。前記中筒体 14 の基端部 14a 下側には、柄 12 の伸縮調節手段としての偏心ゴマ 16 が中筒体 14 の中心軸線より径方向にずれた位置に設けられている。そのため、2 又式モップ 11 を高さの異なる清掃場所に合わせて所望の長さに変更できるようになっている。外筒体 15 の基端部には滑り止めラバーが装着され、握り部 17 とされている。

【0012】 中筒体 14 の先端部には弾性線材としてのピアノ線を折曲形成してなる 2 又状の支持部材 13 が設けられ、同支持部材 13 を構成する逆 U 字状をなす一対の挟持片 18、19 の各基端部がボルト B によって締付固定されている。各挟持片 18、19 の基端部近傍は互いに外側に向かって広がるへ字状に折曲げられている。一方、各挟持片 18、19 の先端部はクランク状に折曲げられ、掛止部 20、21 とされている。

【0013】 次に、本実施例における 2 又式モップ 11 の使用方法について図 2 (a) ～図 2 (b) に従って説明する。図 2 (a) に示すように、まず各挟持部 18、19 の互いに外側に位置する側部 18a、19a を把持し、前記支持部材 13 の内側に向かって撓ませながら、

払拭部材としてのモップ体Mの内部に挿入する。この時、支持部材13の外周縁とモップ体Mの内壁との間には余裕隙間Sができる。

【0014】次に、図2(b)に示すように、支持部材13を内側に向かって撓ませながらモップ体Mの内部に挿入し終えた後、支持部材13から手を放す。すると、各挟持部18、19の側部18a、19aはモップ体Mの内壁によって支持部材13の内側に向かって付勢される。この時、各挟持部18、19の側部18a、19aの外周壁とモップ体Mの内壁との間には余裕隙間Sは存在しなくなる。更に、各挟持部18、19の掛止部20、21も同様にして、モップ体Mの内壁先端部によって支持部材13の内側に向かって付勢されるとともに、モップ体Mも掛止部20、21によって掛止されている。

【0015】そして、各挟持片18、19の内側に形成された凹部Xに払拭される棒状部位、例えば椅子の脚等を挟持して払拭清掃する。このように本実施例では、支持部材13をピアノ線で形成したため、各挟持片18、19は前記柄12の長手方向に沿う全長にわたって柄12の長手方向と直交する方向に撓ませることができる。そのため、前記両挟持片18、19の内側に形成された凹部Xによってあらゆる直径の棒状部位をも払拭清掃することができる。更には、各挟持片18、19は前記柄12の長手方向に沿う方向にも撓ませることができるため、2又式モップ11を用いてあらゆる清掃場所、例えば支持部材13の幅よりも狭い場所等を同支持部材13を折ることなく払拭清掃することができる。

【0016】また、2又式モップ11の使用時においては、各挟持片18、19の側部18a、19aが前記支持部材13の内側に向かって付勢されているため、その付勢力に対向して支持部材13の外側に向かって働く弾性力によって支持部材13からモップ体Mが容易に外れたり抜けたりするおそれがない。更には、各挟持片18、19には掛止部20、21が設けられているため、モップ体Mが支持部材13から抜けたり外れたりするのを確実に防止することができる。

【0017】尚、本発明は次のように具体化してもよい。

(1) 本実施例では、各挟持片18、19をピアノ線から形成したが、各挟持片18、19が柄12の長手方向に沿う全長にわたって柄12の長手方向と直交する方向に撓む弾性を有しているものであれば、例えば合成樹脂等によって形成してもよい。

【0018】また、支持部材13を図3に示すような形状に折曲形成してもよい。このようにしても、本実施例と同様の効果が得られる。

(2) 本実施例では各掛止部20、21を折曲形成により設けたが、支持部材13の外側に向かって突出する凸部を形成し掛止部としてもよい。

【0019】このようにすれば、支持部材13からモップ体Mが確実に抜けたり外れたりしなくなる。

(3) 本実施例では、柄12の伸縮調節手段として偏心ゴマ16を設けたが、例えば中筒体14と外筒体15の挿通部分に前記柄12の長手方向に沿って両筒体14、15を貫通する複数の掛止孔を設け、同掛止孔に位置決めピン等を挿通し所望の位置にて固定する方法を採用してもよい。

【0020】このようにしても、本実施例と同様の効果が得られる。

(4) 本実施例では、各挟持片18、19の基端部近傍をへ字状に屈曲形成したが、各挟持片18、19の内側に凹部Xが形成されるものであれば、形状を変更してもよい。

(5) 本実施例では、2又式モップ11にて具体化したのが、例えば3又式モップ等に具体化してもよい。

【0021】この場合には、支持部材13の幅方向に対して両端に位置する各挟持片に掛止部を設ければよい。このようにすれば、複数の隣接する棒状部位からなる例えばフェンス等の払拭清掃が容易になり、且つ払拭清掃を効率よく行うことができる。

【0022】次に、前記実施例から把握される請求項以外の技術的思想について、その効果とともに以下に記載する。

(1) 請求項1〜3に記載のモップ支持具において、伸縮調節手段が設けられているモップ支持具。

【0023】このようにすれば、高さの異なる棒状部位にも適宜使用可能となる。

【0024】

【発明の効果】請求項1に記載の発明によれば、モップ支持具の支持部材を折ることなく、あらゆる場所を払拭清掃することができる。

【0025】請求項2に記載の発明によれば、請求項1に記載の発明の効果に加えて、各挟持片のあらゆる方向への撓みをも許容し、モップ支持具の支持部材が折れるのを確実に防止することができる。

【0026】請求項3に記載の発明によれば、請求項1又は請求項2に記載の発明の効果に加えて、支持部材から払拭部材の取付け及び取外しを容易に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施例における2又式モップ11を示す正面図。

【図2】(a)〜(b)2又式モップ11の使用状態を示す部分説明図。

【図3】別例(1)におけるモップ支持具の部分斜視図。

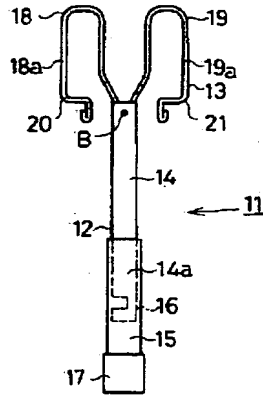
【図4】従来における2又式モップの斜視図。

【符号の説明】

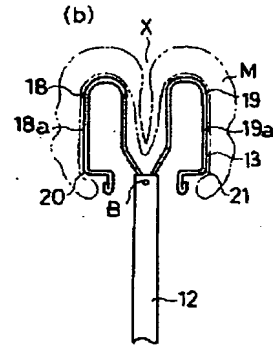
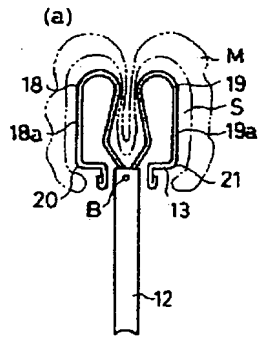
11…2又式モップ、12…柄、13…支持部材、1

8, 19…挟持片、20, 21…掛止部、M…払拭部材* *としてのモップ体。

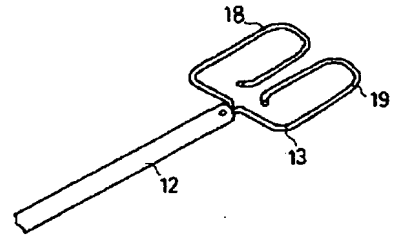
【図1】



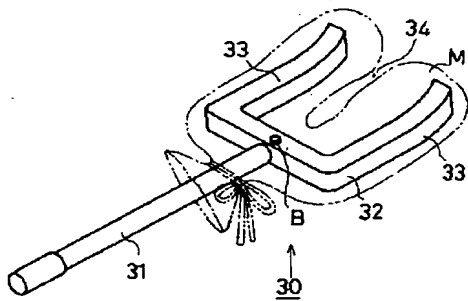
【図2】



【図3】



【図4】



フロントページの続き

(72)発明者 水谷 勲
岐阜県岐阜市若宮町9丁目16番地 株式会
社トーカイ内

(72)発明者 石原 恵美子
岐阜県岐阜市若宮町9丁目16番地 株式会
社トーカイ内

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 11 年（1999）4 月 27 日

【公開番号】特開平 9-483

【公開日】平成 9 年（1997）1 月 7 日

【年通号数】公開特許公報 9-5

【出願番号】特願平 7-154813

【国際特許分類第 6 版】

A47L 13/24

【F I】

A47L 13/24 B

【手続補正書】

【提出日】平成 9 年 11 月 26 日

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図面の簡単な説明

【補正方法】変更

【補正内容】

【図面の簡単な説明】

【図 1】本実施例における 2 又式モップを示す正面図。

【図 2】（a）～（b）2 又式モップの使用状態を示す

部分説明図。

【図 3】別例（1）におけるモップ支持具の部分斜視図。

【図 4】従来における 2 又式モップの斜視図。

【符号の説明】

11…モップ支持具としての 2 又式モップ、12…柄、
13…支持部材、18、19…挟持片、20、21…掛
止部、M…払拭部材としてのモップ体。